基礎研究

D8　深層インタラクション

テレノイド操作による心理的影響の客観的評価

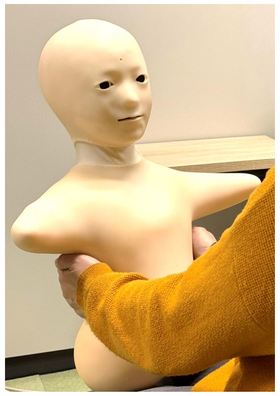
概要

遠隔操作型のアバターやロボットが身近な存在になってきた近年、操作者側の心理的ストレスや健康への影響が心配されています。本研究では、遠隔操作型アンドロイド“テレノイド”を介して会話した場合と、対面で会話した場合のストレス反応の違いを調査し、遠隔操作型ロボットの操作者側の身体への影響を客観的に評価することを試みました。

特徴

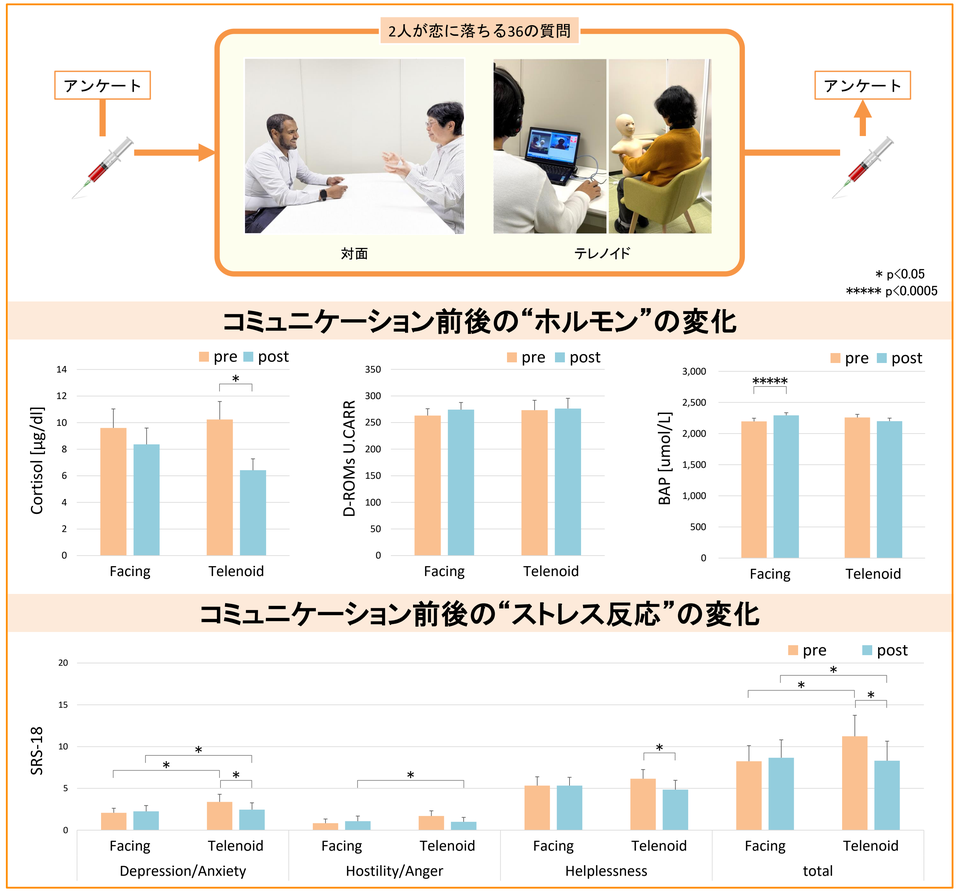
- **コルチゾールの減少**
  テレノイドを介した会話で、有意に減少しました。
  → ストレスが低いことが示唆されました。

- **酸化ストレスマーカー**
  対面での会話で増加しました。テレノイドを介した会話では増加は見られませんでした。



小型の遠隔操作型アンドロイド「テレノイド」

人間としての必要最小限の見かけと動きの要素のみを備えたロボット。誰のようにも見えるため、テレノイドから知人の声が聞こえると、頭に思い浮かべたその声の主の姿形がロボットに投影され、まるでその声の主を抱きかかえながら話しているような感覚を持つことができる。



今後の展開

- アバターが身近になってきた現在、遠隔操作型ロボットを操作することによる長期的な健康への影響を調査していきます。

テーマ「万博、そしてその先へ ～科学技術が描く未来～」との関連

- この研究は、遠隔操作型ロボットの操作によるコミュニケーションが健康へ及ぼす影響について調べるものです。人間の幸福を高め、ストレスのない交流を実現するため、研究を進めてまいります。

連絡先：石黒浩特別研究所　担当：岸本千恵・張 維娟.
E-Mail：kishimotochie@atr.jp，chou@atr.jp

本研究は、JSTムーンショット（JPMJMS2011）の支援により実施したものです。